

山口和之さんの
いきいき
Interview vol.14
企業探訪



日本はもっと
強くなれる
優しくなれる

山口和之
(やまぐち・かずゆき)

元衆議院議員・元参議院議員・南東北グループGM・理学療法士・介護支援専門員。30数年前、福島県立医科大学病院から南東北脳神経外科病院(現在の当院)のリハビリテーション部門立ち上げに招聘される。以後、予防・治療・リハビリテーション・地域ケアにおいて当院の発展に尽力。議員時代に東日本大震災対応をはじめ、世界に誇れる自立支援介護の推進、循環器病対策基本法の立法など医療介護福祉の政策に貢献する。



専務理事
ほんだ ひろし
本田宏氏

郡山トラックセンター事業協同組合

郡山市喜久田町釘3丁目6番地
TEL.024-959-6666
https://www.109931.jp/



組合事業の柱となるガソリンスタンド

山口 私達の生活に欠かせない物流は多くのドライバーの方々によって支えられています。今回は運送会社でつくる郡山トラックセンター事業協同組合にお邪魔しています。まずは組合組織について本田宏専務理事にお聞きします。

本田 昭和49年の東北自動車道の福島県内延伸に合わせ、郡山駅前にあった運送会社(郡山IC付近にトラック団地を造成しました。車両の大型化や交通渋滞、騒音問

題などを防ぐため郡山市主導で進められました。当時は郡山市内に40社ほど運送会社があり、そのうち23社が入居し、昭和63年に官公需適格組合として承認されました。主な事業は①共同運送事業②高速道路利用事業③給油所事業④倉庫事業⑤施設事業となっています。今は組合員(正会員)が20社(運送会社19社、自動車整備業1社)、主に給油所を利用していただく賛助会員が20社です。

省エネ運転による燃費向上で温暖化対策に貢献
運送会社の協同組合としてナンバーワンを目指す

山口 環境問題への取り組みについて教えてください。

本田 温暖化対策にはトラックの燃費向上が最大の効果となります。急発進や急ブレーキを避け、省エネ運転を目指します。燃費が1ℓ当たり百メートル伸びただけで、ものすごい省エネになります。車のキーをベルトに結び付けて車から離れる際にはエンジンを切ることや、待機時間のアイドリングストップで省エネに取り組んでいます。

山口 4月から2024年問題がスタートしました。

本田 ドライバーの年間の時間外労働時間の上限が960時間になり、これを解決するには待機時間や作業時間を短縮し、高速道路の利用で走行時間を短くするなど様々な対応が必要です。運送会社だけでは解決できない問題が多く、集荷や配送で長時間待たされたり、大量の荷物が手積

み作業などのケースがまだまだあります。時間外が減ることとドライバーの給料が下がったり、高速道路の利用料が発生したりするため、輸送料金の適正化に向けて交渉を行う必要があります。

山口 人材確保や社員教育は進んでいますか。

本田 ドライバーの高齢化は今に始まったことではありません。中途採用が圧倒的に多かったため、20年以上前に組合主導で高校の新卒者の雇用に向けて取り組んだことがあ



本田専務から組合事業について学んだ山口さん

ります。数名が採用されたのですが、残念ながら長続きせず、この取り組みは終了しました。現在はハローワークの支援などを受けて企業合同説明会を開催し、今年は2名の採用に結び付けました。

山口 社員の福利厚生や健康経営などはいかがですか。

本田 毎年夏休みに組合員の従業員向けにデイズニーバスツアーを実施しています。今年は8月24日にデイズニーシーへ行きます。組合員の多くが所属している福島県トラック協会の会員向けに脳検診の助成事業があり、徐々にではありますが検診を受けるドライバーが増えてきました。

山口 今後の夢やビジョンについてお聞かせください。

本田 東日本大震災の経験を活かし、行政に頼らない組合作りを目指しています。専門的な言葉になりますが、住民拠点SS*の取得、近隣給油所との連携、緊急車両カイドの登録、受委託点呼の実施、中小企業組合士の資格取得などで、ナンバーワンの組合になることを目指しています。

山口 時間外労働時間の短縮や人材確保など課題も多いですが、組合発展のため、そして日本一を目指して頑張ってください。応援しています!

*自家発電設備を備えた災害時における地域の燃料供給拠点